

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護計画が日常のケアに適切に反映されているか、日々モニタリングする仕組みがなく、内容を詰め込み過ぎて、形だけのプランになっている。	介護計画の中から、この期間はこの項目に重点を置いて取り組むなどポイントを明確にし、それに対して、日々のケアが適切に行われたのか検証する仕組みを作ることができる。	介護計画書に1ヶ月ごとに重点を置いて取り組む項目(1~2)を決め、ケアに取り組む。決めた重要項目は、各入居者ごとに明示し、日々の介護記録の、プランに基づいてケアを行うことができたか評価をする欄に評価を書きこむ。その評価をまとめて、次の評価会議やプラン作りに活かす。	6ヶ月
2	11	内部・外部研修とも計画的に実施できていない。	研修の年間計画を立て、内部研修に関しては、会議等と合わせて行い、外部研修は、だれが担当するのかをあらかじめ決めておき、それに向けてシフトを組むなど計画的に時間を作る工夫ができるようになる。	内部研修は、毎月のフロア会議やカンファレンスの時間の最後何分かを活用し実施する。外部研修は、年間計画通り、担当する職員を決め、参加を促す。研修後伝達研修をするなど、皆に広める工夫を考える。	6ヶ月
3	23	認知症の進行に伴い、入居者一人一人の思いや意向を十分に聞き取り、ケアに反映させる場面が少なくなってきたり、職員主導で進めてしまっている場面が多くなっている。	判断に迷った時、判断材料になるのは、入居者様の思いや考えという原点に立ち戻り、入居者様が今何を求めているのかを常に考え行動ができるようになる。	各フロア、モデルケースを一人選び、各々の思いや考えをその方の立場に立って考える機会を作る。研修という形で行うならば、センター方式のシートも活用する。それにより普段見えなかった入居者様の思いや考えに気づき、それを叶えるために実践したことで、入居者様に良い変化をもたらすことができたなど、成功体験を積み重ねていくことが大切。	6ヶ月
4	6	フロア入口の施錠の解除に関しては、妙案がなく、施錠を継続してしまっている。	フロア施錠を解除していくための話し合い検討会を継続して行い、施錠解除に向けて工夫をすることができる。	フロアスタッフが充足できており、入居者様も落ち着いている時間など、短時間でも施錠を解除していく工夫を考える。それで問題なく対応ができると、それが当たり前になり、施錠の解除を日常的に行えるようになると思う。	6ヶ月
5	1	事業所の理念が長く、重要なポイントがぼやけてしまう。	事業所の理念を簡潔にわかりやすい言葉にし、重要なポイントを明確にすることで、スタッフの意識の中にも入りやすくなり、より実践に生きてくるものになりたい。	事業所理念のもとに、3大目標を作り、それに基づいてケアをしているが、その3大目標を理念にし、日常のケアへの浸透を図りたい。	6ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。